

飼育日誌より

04.1.1 ~ 04.3.1

- 1/1 ☀ サル山：♂No.9、死亡。
ペンギン：A巢のヒナ、1羽を確認。もう1羽は不明
- 1/5 ☀ シマウマ：コタロウ♂、仔を追いつつ、すぐナイヴ♀が仲に入りトラブルなし。
ノドジロオマキザル：♀1、外の排水溝に横たわっているのを発見、病院へ収容。
- 1/6 ♣ ノドジロオマキザル：昨日入院した個体、死亡。
- 1/11 ☼ ラクダ：成♀仔♀間で闘争あり。
- 1/15 ☼ ペンギン：室内No.6巢、抱卵1個目。
- 1/18 ☀ サル山：仔♀、衰弱のため病院に収容、治療する。
- 1/19 ☼ ペンギン：室内No.6（左2青右67、左緑右黒のペア）、2個抱卵中。2個目は17日産卵の様。レッサーパンダ：健健♂とハナ♀の交尾を確認。かなりしつこくマウント。
ホンドテン 1/16搬入の♂個体、病院からテン予備舎へ移動。（ケージで飼育）
- 1/21 ☼ ♣ チンパ：室内展示場にノリコ♀、ユミノスケ♂、ミユキ♀を出す。最初ユミノスケがミユキを追うがその後はトラブルなし。
ノドジロオマキザル：全頭体重測定、3頭入れ墨。
- 1/25 ☀ レッサーパンダ：ナナ♀、キュルキュルとよく鳴く、マーキング行動も多い。
- 1/27 ☼ タンチョウ：展示場に血痕あり、その周りに小さい足跡（イタチ？）があった。
イヌワシ：ペア、午前中に交尾行動を確認。メスは拒否。
- 1/28 ☼ ↑ キリン：♀、朝、展示場に出す前に室内で軽く動き回る。その際、転倒し起きあがるまで暴れる。ケガはなかったが非常に危険だった。
アライグマ：夕方、交尾らしき行動あり。
- 1/30 ♣ ☼ ウサギ：ギン♀とAZ♂、繁殖用に同居。
レッサーパンダ：健健♂とナナ♀をペアにする。ハナ♀は室内展示場で別居。
チンパ：冬の観察会展示実験として室内展示場に餌入り段ボール箱をおく。ユミノスケ♂、少し興奮。
- 1/31 ☀ サル山：子ザル♀、元気になったためサル山に戻す。
アライグマ：闘争により1頭（性別不明）治療のため、病院に収容する。
- 2/1 ☼ ♣ アライグマ：前日入院個体の左耳欠け、♂(0063 AD573)と判明。去勢する。
- 2/2 ♣ ↑ ラクダ：仔、落ち着きなく噛みついてくる。
ライオン：♀ミカと♀ララ、キーパー通路下にて見合い。人を気にして進展せず。
ワシミミズク：♀、AMから地面に窪地を作りうすくまっている。（抱卵体勢）

- 2/3 ♣ アライグマ：♂左耳欠、退院してアライグマ舎へ。♂両耳欠、去勢のため入院。
ワシミミズク：♀、産卵し、抱卵している（1卵目）。
- 2/4 ☼ ♣ シマウマ：♀、流産。（仔、体長11.0cm BW 87g）流産後、特に異常は見られない。
- 2/7 ♣ ☼ ペンギン：A巢ヒナ、初めて巢の外に出た。昨年夏のヒナより成長は遅いが、順調の様。ラクダ：仔、発情。壁に体をこすりつけてうなり声を上げる。
- 2/8 ♣ ☼ 冬の観察会
チンパ 室内展示場に餌を入れた箱を置く。トラブルもなく箱の中から餌を取り出して採食。
ワシミミズク：2卵を抱卵中。
- 2/11 ☀ トナカイ：成♀、朝、掃除の為放飼場に入ってもずっと座ったままだった。
ワシミミズク：3卵を抱卵中。
- 2/12 ♣ レッサーパンダ：健健♂ナナ♀、朝（9時頃）交尾確認。その後も♂がしつこく♀を追う。
ラクダ：♂、攻撃的につきま要注意。
イヌワシ：ペア、巣台へ巣材を大量に搬入している。
- 2/13 ☀ イヌワシ：午後、松の枝を投与、オスの搬入数回。16：30頃、完全交尾時の鳴声を確認。
ワシミミズク：4卵を抱卵中。
- 2/21 ☀ ワオキツネザル：ケージに分けていた個体を群れに同居。日中は特に問題なし。
- 2/22 ☀ チンパ：ユミノスケ、ノリコ、ミユキ間にトラブルあり。ミユキ、額に負傷。
- 2/23 ☼ トナカイ：軟便のため駆虫剤と整腸剤を投与。
ラクダ：仔、納舎後に号令で座らせ、頭絡装着。特に嫌がる様子なし。
- 2/24 ♣ ワタボウシパンシエ：出産していたが胎児は死亡。妊娠期間150日、9月に交尾、妊娠？
- 2/27 ♣ ツキノワグマ：出産、腹の下から仔が顔を出して寝ていた。（1頭確認。）
- 2/28 ♣ ↑ ペンギン：室内No.6巢の卵、1個割れていたがヒナの姿は見られなかった。
カピバラ：隔離個体の♂タクマ、♀群と再び同居。
- 2/29 ↑ ウサギ：♀カヨ、出産。2羽確認したが、詳細不明。
- 3/1 ♣ ペンギン：A巢ヒナ、午前中プールで泳いでいた。（75日目）
サル山：室内で別飼育の♀仔、衰弱のため入院。
ツキノワグマ：仔2頭確認。開眼しているようだ。

2/8 冬の観察会から
雪のクマさんに乗っ
ちゃった！



飼育動物数

	種類	点数
哺乳類	57	295
鳥類	54	190
は虫類	10	37
魚類	3	8
合計	124	530

(平成16年2月末現在)

編集後記

今回の特集では、今春飼育を開始する種を含め、希少動物の種の保存に関する取り組みをご紹介します。動物園が個々でできることには限りがありますが、他園との協力や連携により大きな成果が得られることもあると思います。ホットインフォメーションでご紹介した飼育技術者研究会等での発表や交流は、その意味でも有意義なことと思われま。

今回、内容がやや堅めとなったのは、野生生物を取り巻く状況の厳しさを真剣に受け止めている結果と感じていただければ幸いです。

— 千葉克己 —